



Title	【展覧会報告】大阪ラスキン・モリスセンター収蔵品による企画展：今に生きるラスキン
Author(s)	高安, 啓介
Citation	デザイン理論. 2025, 85, p. 112-113
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/100297
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

【展覧会報告】

大阪ラスキン・モリスセンター収蔵品による企画展 今に生きるラスキン

高安 啓介 大阪大学



企画展

今に生きるラスキン Ruskin Alive

会期：2024年9月20日～10月20日

場所：大阪大学中之島センター4階展示室

主催：大阪大学中之島芸術センター

協力：大阪ラスキン・モリスセンター，
studio-L，大阪大学美学研究室

監修：横山千晶（慶應義塾大学）

三木はるか（日本女子大学）

第1部 ラスキン多面体

1-1 美術批評家ラスキン

1-2 社会改良家ラスキン

1-3 環境保護家ラスキン

第2部 聖ジョージ・ギルド

2-1 ギルドの文化活動

2-2 ギルドの社会活動

2-3 ギルドの環境活動

第3部 コミュニティ実践

3-1 露木コレクション

3-2 みんなでつくる

3-3 自然にいだかれて

展覧会について

2024年9月20日から10月20日まで、大阪大学中之島センター4階展示室にて、企画展「今に生きるラスキン」を開催した。本展では、大阪ラスキン・モリスセンターの収蔵資料をとおして、ラスキンの芸術への眼ざしや、社会への関わりや、環境保護への足がかりを明らかにし、ラスキンの設立による聖ジョージ・ギルドや、日本の studio-L の取り組みにも注目して、ラスキンの思想がいかに後世の活動へと波及してきたかを解説した。

ラスキン多面体

ジョン・ラスキン（1819-1900）のゴシック建築への眼差しをあらわす例として、ラスキンが『ヴェネツィアの石』によせて出版した『ヴェネツィア建築図集』のうちの10枚の版画を展示した。原画はラスキン自身によるものである。

ラスキンは、美術批評家としてはターナーやラファエル前派の画家たちを擁護し、ゴシック建築を賛美した。美術教育家としては、労働者大学やオックスフォード大学において素描教育に力を注ぎ、多くの著作を残した。ラスキンはまた、聖ジョージ・ギルドを設立するなど、産業資本主義にからめとられない新しい生活実践のありかたを提示した。ラスキンは『フォルス・クラヴィゲラ』で環境保護をうったえ、鉄道計画に反対するなど、環境思想の先駆者としても評価されてきた。

聖ジョージ・ギルド

ラスキンによって1870年代後半に設立された聖ジョージ・ギルドは、教育チャリティー団体として現在も存続している。もともと、大都市中心の市場経済にたいして、中世の農村社会を理想として設立された経緯をもつ。文化活動については、1875年にシェフィールドに最初のギルドのミュージアムが設立され、自然科学への関心にもとづく美術教育が試みられるとともに、地元労働者のコミュニティの場としても機能した。社会活動とし

ては、ラスキンはマン島の毛織業の支援をおこない、聖ジョージ毛織工場の後押しをしたり、湖水地方のラングデールの手紡ぎの製品をとおして、女性たちのエンパワメントをうながしたりした。環境活動については、ラスキンが1877年にシェフィールド近くに農園を立ち上げて、協働農業を始めて以降、ギルドの土地のいくつかはいまも引き継がれている。

コミュニティ実践

大阪ラスキン・モリスセンターは、2006年に露木紀夫の私設資料館として設立され、ジョン・ラスキンや、ウィリアム・モリスに関係する資料を所蔵している。これらの資料は、露木が30年以上かけて集めたものである。これまで、センターの改修作業や、蔵書の整理作業は、studio-Lとともに、地域住民、学生、研究者などの有志によってなされてきた。今後この施設は、資料閲覧の場にとどまらず、豊かな自然のもとで地元住民に見守られながら、コミュニティデザインの学びの場となることが計画されている。

